

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3873600468		
法人名	医療法人大志会		
事業所名	グループホームうちこ園		
所在地	喜多郡内子町内子3683番地 (電話) 0893-59-2214		
管理者	片岡 知恵美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (平成20年9月20日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成17年3月3日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.6人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	250円	昼食 350円
	夕食	400円	おやつ 食費に含む円
	または1日当たり円		
(3)利用者の概要 (平成20年9月20日現在)			
利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 85.1歳	最低 76歳	最高 95歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内のグループホーム連絡会が主催する「合同運動会」も3回目を迎え、参加人数も増え、年々交流も深まってきている。利用者も、宝さがし等の競技に参加された。又、「地域で安心して暮らせる、支え合う町作りネットワーク作りのために」というテーマで「合同講演会」も開催された。  
日常的に散歩や買い物に出かけておられる。地元の新鮮な野菜を買いに「道の駅」に、2日に1回、買い出しに行かれている。又、利用者一人ひとりの希望にそって、図書館や神社、昔懐かしいニッキ飴等を売っている店にも日常的に出かけておられる。ホーム内では全介助が必要な方でも、外食時にはご自分の力で食べる姿が見られることもある。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
・前回の評価結果を受けて、改善計画を作成し、災害時に地域との連携を図れるよう、運営推進会議時に話し合われる等、災害対策に取り組みました。
今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
・自己評価は、さらなるサービスの質の向上を目指して、すべての職員で取り組みました。管理者は、「個別支援の重要性」を再認識された。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
・会議には、ご家族、民生委員、自治会長、老人会長の方等も出席されている。事業所から活動状況や利用者の近況等について報告し、ご意見をうかがっている。時には、会議後に、家族会主催の「お弁当を食べる会」に参加していただき、利用者・ご家族と交流することもある。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
・家族会を、「そうめん流し」や「運動会」「うちこ園祭り」等の行事時に開催し、ご家族同士で交流されている。又、ご家族の希望で、県内の介護施設の見学ツアーを実施された。ご家族の来訪時や、年に2回、管理者が利用者のご自宅を訪問した折等に、意見や要望を出してもらえよう働きかけておられる
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
・事業所は、地域の四季折々の行事に積極的に参加されており、又、利用者は、地域の生きがいサロンの「ゲーム」や「お話会」等にも楽しみに出かけておられる。事業所の「うちこ園祭り」では、多くの地域の方達にボランティアとして協力いただいている。季刊の「うちこ園通信」を公民館や役場等にも配布し、地域の方にも読んでもらうようにされている。

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームうちこ園

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

片岡 知恵美

評価完了日

平成 20 年 9 月 25 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で地域密着型サービスのあり方を話し合い確認しあいながら、事業所と地域との関係性の強化を図り、地域密着型サービスとしての役割を反映した理念に対する行動指針として、目標を掲示して意識的に取り組めるように作り上げている。		
			(外部評価)		
理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			(自己評価) 毎朝のミーティング、毎月の職員会議及び新人研修やOJT実地研修計画等のあらゆる機会において理念を伝えるとともに、理念は介護サービスの原点として、機会あるごとに原点を振り返り理念を掘り下げるような意識付けを実施している。		
			(外部評価)		
家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる			(自己評価) 家族会の行事を通してまた日常的な面会での来所においてや自宅を訪問して家族との懇談を通して説明したり、年4回のホーム通信や毎月の家族へのお便り等を活用している。また運営推進会議、町内の生きがいサロン、地域の集まりなどの機会をとらえて事業所の理念や実践、役割などを伝えるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に買物に出かけているので近隣の人たちと声を掛け合ったりしている。近隣に民家が無いのでやや孤立しがちではあるが、近くにあるブドウ観光園で働く近所の人やホテルハイプラザでの従業員の方々、又デイケアに通所してくる顔見知りの方との交流が図れている。旬の野菜や果物などの差し入れも多い。		今後も隣近との関係を深め馴染みの関係を築いていくように努めたい
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域のお祭りやうちこ音頭の踊りに事業所として参加したり、生きがいサロンなどにも積極的に参加している。また事業所にサロンの方々にも訪問していただいたり、地域の保育園の子供たちや中学生や高校生のボランティアの受け入れをしたりと交流を図っている。		運営推進会議を活用し町内の夏祭りのイベント「阿波踊り」の協力や見物することが出来た。今後も円滑な運営における自然な地域とのつながりを広げていきたい
			(外部評価) 事業所は、地域の四季折々の行事に積極的に参加されており、又、利用者は、地域の生きがいサロンの「ゲーム」や「お話し」等にも楽しみに出かけておられる。事業所の「うちこ園祭り」では、多くの地域の方達にボランティアとして協力いただいている。季刊の「うちこ園通信」を公民館や役場等にも配布し、地域の方にも読んでもらうようにされている。		職員は、「今後も、利用者と散歩や買い物に出かけた際には、気軽に地元の方とお話する等、さらに地域とのつながりを深めていきたい」と話しておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症介護の啓発及び地域密着型としてのグループホームの役割などについて地域住民に理解を求める目的で愛媛県研修センターの協力を仰ぎ、パネルなどの展示や認知症研修会を開催して「認知症になっても地域で楽しく暮らしたい」を合言葉に、考える場を提供している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全職員で取り組んでまた、サービス評価の意義や目的についても全職員で共有するとともに、運営推進会議などにおいてもサービス評価の意義や仕組みについておりにふれ説明し理解を求めている。サービス評価は私たちの改善のチャンスであると受け止め全職員が改善計画に向けて取り組むように共有している。		
			(外部評価) 自己評価は、さらなるサービスの質の向上を目指して、すべての職員で取り組まれた。管理者は、「個別支援の重要性」を再認識された。前回の評価結果を受けて、改善計画を作成し、災害時に地域との連携を図れるよう、運営推進会議時に話し合われる等、災害対策に取り組まれた。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は尊い贈り物であると位置づけ推進委員の方の意見や要望を改善課題として反映させるようにしている。また地域密着型のサービスとしてグループホームのあり方についても、ともに共有して協力体制により取り組むようにしている。		各グループホームの運営推進会議の活動と家族会の活動、及び町内のグループホーム連絡会の活動が重なり合って更に地域密着型サービスとしてのグループホームの役割などについての総合的な活動によりネットワーク作りを勧めていきたい
			(外部評価) 会議には、ご家族、民生委員、自治会長、老人会長の方等も出席されている。事業所から活動状況や利用者の近況等について報告し、ご意見をうかがっている。時には、会議後に、家族会主催の「お弁当を食べる会」に参加していただき、利用者・ご家族と交流することもある。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 日常的な運営やサービスにおいて生じる課題や疑問については事業所で抱え込まず気軽に相談できる状況である。毎月集まって情報交換している町内のグループホーム連絡会に於いて必要時は同席してもらい様々な取り組みの協力が得られるように意見交換したり情報の共有をしたりしている。		
			(外部評価) 運営推進会議や町内のグループホーム連絡会には、町の担当者に出席いただき、国や県・市で決まったことを報告していただいている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度や地域福祉権利擁護事業等の対象者は居ないが、勉強会を持って職員が理解出来るようにしている。また地域で開かれる研修会にも職員が交互に参加して認識を高めるようにしている。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや勉強会等において虐待の詳しい内容についてや高齢者虐待防止法についての理解を図り虐待の徹底防止に努めている。また日常的な介護サービスでの適切な対応のあり方についても折に触れて協議しあったり、正しい認識が持てるように努めている。		虐待などに対する正しい認識と全職員の理解浸透を更に図る取り組みを勧めたい

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約においては事業所の理念や取り組み介護サービスに対する状況考え方を丁寧に説明した、今後起こりうる新たな課題や疑問等においても十分に話し合えるようにしている契約解除等においても状態の変化や本人及び家族または医療的な連携による主治医等の意見を踏まえて納得できるように努めている。		入居後においても機会あるごとに契約内容が解かり易く思い出せるように説明をしていく
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1.2回のボランティアの訪問時にさりげなく好きな事や望むことなどを聞き出してもらったり、入居者の立場に立った率直な意見を頂くようにしている。更に日常的に介護の中で本人の好むことや意向などを探るような問いかけをしたり、どちらが良いか洗濯できるような働きかけをしたりと、工夫している。		センター方式を活かした本人の要望などを日々の介護の中から掘り起こす取り組みを今後も続ける
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月のお便りに本人の生活状況及びや現状を細かく伝え情報を家族と共有することで職員と家族の思いが徐々に重なり一緒に支えていこうとする意識を高めるように時には笑っている場面の1コマを写真に添えたりしている。また通信や金銭出納長も定期的に確認できるように同封している。また面会時には重ねて情報を交換し共有するように努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、ご本人の健康状態や日々の暮らしぶりを伝えておられる。毎月、利用者個々に、職員の手書きの手紙に、ご本人のベストショットの写真を添えて、近況報告されている。又、事業所通信には、行事の様子等のカラー写真や事業所の取り組み、新人職員の紹介等を載せて、定期的にご家族に届けておられる。		今後、運営推進会議時に話し合われたこと等も、「通信」に掲載し、ご家族にお知らせしてはどうだろうか。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族にはお便りや面会時、また自宅を訪問するなど少し場所や方法を変えて話しやすい雰囲気を作るなど工夫している家族会であるお弁当を食べる会や運動会などの行事を通じた家族同士の集まりで意見を気軽に出来るような雰囲気作りをしている。運営推進会議や町の相談窓口など意見や苦情を伝える場があることについての説明も折に触れて実施している (外部評価) 家族会を、「そうめん流し」や「運動会」「うちこ園祭り」等の行事時に開催し、ご家族同士で交流されている。又、ご家族の希望で、県内の介護施設の見学ツアーを実施された。ご家族の来訪時や、年に2回、管理者が利用者のご自宅を訪問した折等に、意見や要望を出してもらえよう働きかけておられる。		アンケートを実施して家族等の思いや意見を聞きだす工夫をしているが今後は家族だけで話し合える場を作るなどさまざまな対策を考えて意見や苦情を出しやすい機会を作るように勧める 管理者は、ご家族の要望や意見を改善の宝と考えておられ、今後、家族会時に、ご家族だけで話し合う機会を持ちたいと話しておられた。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会、懇親会、個別懇談などの機会を得て折に触れ事業所の運営に関する事項について意見や提案が言いやすく活かしやすい雰囲気作りにつけている。明るく指摘しあえる職場作りを常に心がけている		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者の生活が自由に楽しく生活できるように柔軟な勤務配置を考え夕方外出や花火などの対応を他の職員の配置を増やすことで対応して居る。管理者は勤務シフトには入れていないため入居者の状態に応じた柔軟な体制を取ることができている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 入居者と職員との馴染みの関係作りの重要性を理解し、法人内の異動ややむなく退職する時などは、3ヶ月の期間を設け引継ぎの機能を十分に取、入居者に対するサービスの質が保たれるように、又引継ぎによる精神的不安が最小限に留まるように最善を尽くしている。 (外部評価) 管理者は「感動を共有し合い、目標を持って働き、自己実現のできる職場環境作り」に努力されており、「職員を大事にすると、職員は利用者を大事にしてくれる」と話しておられた。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) OJT計画を作成し全職員に情報開示してみんなで育てる明るい職場であることを目標にして「明るく指摘しあえる職場作り」を実施している。また段階に応じた研修を順次受けられるように機会あるごとに研修会に参加し全職員が共有できる体制を作っている。更に各職員の技術や資格を高める場合の優遇もしている。 (外部評価) 事業所では、「仕事のできるスタッフを育てる」ために、新人研修を始めとして、内部研修の充実を図っておられる。外部講師を招き、「地域で楽しく暮らすため、グループホームの役割について」等の講演会も開催された。又、職員個々に段階に応じた外部研修の受講も、積極的に推進されている。		OJT実施研修計画においては更に全職員とも検討し合いまた経験年数毎のスキルアップについても勤めたい。  管理者は、今後さらに、職員個々に1年ごとに目標を定め、到達度が明確にできるような実施研修計画を検討されている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 町内の連絡会において毎月自主的に集まり情報を交換したり運営上の悩みや意見、知識を持ち寄り話し合ったりして、情報を共有している。またセンター方式勉強会や合同運動会や合同研修会を開催して地域住民や行政等の協力を得てグループホームのあるべき姿や認知症の介護についてなどの啓発を行い地域に貢献している。		今後も地域住民と共に勉強していけるようにグループホーム間の連携を深めていく
			(外部評価) 町内のグループホーム連絡会が主催する「合同運動会」も3回目を迎え、参加人数も増え、年々交流も深まってきている。利用者も、宝さがし等の競技に参加された。又、「地域で安心して暮らせる、支え合う町作りネットワーク作りのために」というテーマで「合同講演会」も開催された。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 法人内の陽だまり会による親睦会が定期的に行われたり、同じ法人内の勉強会や県内のグループホーム連絡会の研修会に参加して他の事業所との交流を図ったり、定期的に個人面談を実施したりまた日常的な個別会話の中で考えや悩み等を把握するように努めている。		介護職の離職率の増加が社会問題であるが、当事業所に於いても離職を防ぐ対策を全職員を含めて提案していく姿勢が求められている
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 就業規則に準じた勤務条件となっている。また余裕を持つて勤務できるように正職員の数を多くしている。法人内の労働安全衛生管理士の元、安全性や衛生面におけるアドバイスを受けている。年2回の健康診断も施行されている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) センター方式のアセスメントを活用している。利用開始の契約前において、事前調査で住み慣れた自宅へ訪問して本人の居住まいの状況や困っていることなどを十分に把握し、また事業所の視察も気が済むまで何度でも来ていただき十分に納得してまた顔見知りの関係作りをして入居していただけるように努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族の思いや考え、家族の状況を把握すると共に家族ニーズを総合的に把握しながらセンター方式のアセスメントに家族にも記入の協力をしてもらっている。本人や家族また、家族間同士の考えや意向が事業所の課題や目的として捕らえられるように意見交換しながら勤めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に入居のみを前提にするのではなく、担当のマネージャー及びサービス担当者、法人内の相談員等とケース検討会を開くなどにより各専門家の意見も考慮して本人や家族にとって理想的なサービスの形についても相談できるように努めている。		地域に開かれたグループホームを目指し必要時は町の介護保険課等にも適宜相談し本人や家族にとっての最善のサービス選択となるように今後も努めていきたい。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に自宅訪問をして本人に会いに行き、次は事業所に遊びに来てもらい話し合ったり、直接入居者や職員と話したり実際の生活ぶり等をいつでも見学が出来るように柔軟な対応をしまた、入居時は親しい近所の人や親族などともゆっくり交流をし十分納得して入居できるように工夫している。		
			(外部評価) ご本人が納得して入居できるような支援に努めておられる。併設の介護老人保健施設から入居に至る方もおられる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの特徴や癖、好きな事や喜びことを知り意向を確認しながら1日1回は大きな声で笑うことが出来るような日常を作るように工夫したり、不安や苦しみは共感し分かち合えるように生活を共にしながら一人ひとりの出番を自然に作り支え合う関係作りに配慮している。		生活を共にし支えあうことで信頼や尊厳がおのずと生れることを大切にしたい
			(外部評価) 職員は、「心の底から笑ってもらえるように」という思いを大切に日々支援されていた。又、利用者と本と一緒に読みながら難読漢字を教わったり、お料理や野菜の選び方等を伝授していただくこともある。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会行事での情報交換や、毎月のお便りにより日常生活の出来事や場面での表情などを時には写真も印刷して伝えたりグループホーム通信にて情報を伝えるなど、また時には自宅訪問をする等、あらゆる機会により情報を共有しながらより良い認知症の介護の為にどうすれば良いかとの視点により意見交換をしている。		家族の意向や考えに常に注意を払いながら共に本人を支え連帯感により一緒に考えていく姿勢を持って関わっていく
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入所後も本人やご家族が親睦を深めることが出来るよう、自宅への外出や外泊の支援をしたり、家族会の行事と一緒に楽しんでもらうようにまた、家族関係の距離感を図りながらより良い関係が継続できるように面会時は本人の日頃の家族に対する親愛の情について話していることなどを飾らずに伝えたり一緒に写真を見て情報を共有するなどの工夫をしている		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容室やマッサージ医院などに継続して利用できるように支援したり、また友人や知人に合って交流が持てるように外出の支援を家族と意向を確認しながら勧めたり、時には面会に来て交流をしてもらったり、手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士の関係や親密度等を把握し毎日笑って過すことができるように職員が仲介しながらまた、畑作業のように入居者同士が団結して成し遂げ喜び合える場面作りを設定して、みんなの関係が円滑になりまたそれぞれの個性が発揮できるように細心の注意を払いながら支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービスの終了後も継続してその家族の方々に遊びに来てもらい入居者と交流を持ったり、更に他友達を連れ立って遊びに来てくださったり、変わらず通信を配布しうちこ園祭りや合同運動会などの家族会の行事などにも招待して交流したり、遊びに来ていただいて一緒に食事してもらったりと交流の輪が少しずつ広がっている。		地域の一員として共に地域で楽しく暮らすための手立てを考える意識を育てながら、認知症に対する理解を深めるような取り組みを勧める

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を活用してアセスメントをしながら入居者一人ひとりの本当はどのように暮らしたいのか、言葉にしにくい思いや考えを汲み取り把握するように努めている。また極めて意思疎通の図りにくい方においては家族や関係者からの協力を得ながら勤めている。		
			(外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの言葉に耳を傾け、思いを汲み取れるよう努めておられる。又、センター方式のアセスメントシートを用いて、ご本人やご家族から得た情報を職員間で共有し、日々のケアにつなげておられる。		今後、管理者は、日々のケアの中で新たに発見した利用者の思いや意向を、アセスメントシートに色を変えて書き加えていき、より多面的な利用者像の把握に努め、さらなる個別支援につなげていきたいと考えておられた。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用にいたるまでの事前訪問や来所に於いての情報収集にて今までの暮らしぶりなどを把握するように努めているが、暮らしを共にする中での気づきや嗜好についての情報は少しずつの積み重ねにおいて明らかになる事も多い。他人の生活歴や過去を尋ねることの重要性及び責任を十分に認識しケアの質向上に活かせる事の理解を得ながら勤めている。		
			(外部評価) 入居者一人ひとりの生活のリズムを理解し日々の生活の中での小さな出来事や出来ない事出来る事などを含めて日差変動や日内変動にも注目しながら見守り観察し、可能性を持ちながら決め付けないで柔軟な視点での把握をするように全職員で申し合わせながら勤めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの生活のリズムを理解し日々の生活の中での小さな出来事や出来ない事出来る事などを含めて日差変動や日内変動にも注目しながら見守り観察し、可能性を持ちながら決め付けないで柔軟な視点での把握をするように全職員で申し合わせながら勤めている。		
			(外部評価) ご本人の思いを主体に、ご家族の希望をうかがい、職員の気持ち等も採り入れ、介護計画を作成されている。又、職員は、日々のケアの中で利用者一人ひとりの課題点を明確にし、介護計画に活かすようにされている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を利用して日々の介護の中からのさりげない行動や言動等にてできる事出来ないことを観察的確に把握しながら介護記録にて共有し、更に課題を認識したうえで介護計画に反映させていく。毎日の介護の積み重ねと本人や家族の意向と気づきやアイデア等を総合的に反映させて介護計画をみんなで作成する体制を取っている。		
			(外部評価) ご本人の思いを主体に、ご家族の希望をうかがい、職員の気持ち等も採り入れ、介護計画を作成されている。又、職員は、日々のケアの中で利用者一人ひとりの課題点を明確にし、介護計画に活かすようにされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画設定期間終了前には入居者一人ひとりの現状に応じて家族や本人の要望も取り入れながら計画の見直しを行っている、また計画設定期間にとらわれず職員の最新の気付きや本人の様子の変化に対して情報を共有しながら実情に応じた介護を遂行するために計画の変更見直しを臨機応変に実施している。		
			(外部評価) 3ヶ月に1度の見直しと、状態変化時には、随時見直しを行っておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録によりその日勤務していなかった職員にも解かるように毎日の状況や介護での気付きなどをSOAP記録方式にて情報を共有できるようにしている。毎日の介護記録と状況観察記録、アセスメント等を介護計画に反映できるように総合的な循環型の記録方式にしている。		今後も他の事業所と情報交換したり、研修を受けて研鑽しながら介護記録の充実を図り介護計画に日々の記録を活かせる取り組みに努める
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者や家族の状況に応じて受診や送迎などの支援は柔軟に対応しているまた、医療連携体制を生かして必要時は往診等による医療の継続や重度化に対応する連携体制等十分に主治医や本人家族との連携を図りながら入居者個人の満足度が高まるような工夫をしている。		
			(外部評価) 職員は、利用者の希望で、お墓参りや、ご自宅の畑の様子を見に同行されている。又、遠来のご家族が事業所に宿泊される等、ご本人やご家族の事情を踏まえ、柔軟に対応されている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 入居者の楽しい暮らしを継続するために地域の民生委員、ボランティアへの協力を得て交流を図っている。地域のコミュニティセンターや図書館、福祉館を頻回に活用して身近な地区の情報を得たり、地域周辺との接点を持ち地域資源の活用により生活の質の拡大に役立てている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスを利用することには至ってはいないが、入居者の担当ケアマネジャーや地域包括支援センターとの連携及び町の介護保険課の担当者の意見交換や検討をしたり、訪問美容サービスを要望に応じて利用したりまた訪問マッサージのサービスの利用においてもみんなで情報を交換したりしながら要望や意向に応じたサービスの拡大を心がけている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとかねてより連携を図っており、法人内において権利擁護や介護予防についての介護教室を開いたり、現在はまだ必要性は発生していないが、困難事例や成年後見制度等においていつでも検討できるような連携体制である。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者及び家族の希望するかかりつけの医療機関にて継続した医療を受けられるように家族等と相談しながら受診介助したり又家族が付き添ったりして通院治療を受けている。入居者の病状に応じて定期的に受診し又緊急時は往診を受けたり主治医との連携を図りながら入居者にとって最善の医療が提供されるべく、主治医本人及び家族、事業所が連携している。 (外部評価) 松山市等、町外のかかりつけ医を受診する際には、ご家族が付き添われることが多く、町内のかかりつけ医や皮膚科、歯科等の受診の際には、職員が同行し、支援されている。		夜間でも緊急時には対応してもらえる関係作りがあり日頃から医療的な相談も可能である。今後も共に入居者の健康管理と入居者の予防的な視点において連絡を密に取りながら連携体制を継続していきたい
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 理事者が脳神経外科医師であるため、認知症の困難事例等において日常的な助言や指示を得られる体制である。又同法人内の施設は医師が施設長であるため日常的に診断情報や治療方針等において指示や助言を受けている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 管理者が看護師であるため入居者の日常的な身体状況に於いて詳細な観察による健康管理や一般状態の変化に応じて主治医と気軽に相談できる体制が確立されている。医療連携機関の看護職や医師との連携が密に図れているまた、同法人内の母体施設の看護師長や施設長(医師)との連携も図れる。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関受診時において同行して治療方針の確認や相談を常日頃から受けている体制であるため、今後の治療方針や入院に対する治療指針や治療期間等について気軽に相談できる状況である。また家族の意向が医療機関の治療方針にうまく反映されるように医師に伝えたりして連携を図るようにしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取り対応マニュアル、医療連携体制に関する指針等について説明し同意を得ている。病状の変化、状況に応じて今後の予期できる事項を踏まえた説明を主治医同伴で家族に行うとともに今後の方向性等に付いても慎重に話し合い選択できる場を提供して、入居者や家族が心から信頼できるような体制を作っている。 (外部評価) 現在、終末期を迎えている利用者、事業所では、ご家族の気持ちを尊重し、かかりつけ医とも密に連携を図り、支援されている。		入居者を中心にした関係者の横の連携を図り段階的な合意と状況に応じたくり返しの話し合いを勧めていく
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の要望意向を尊重して医療連携機関やかかりつけである主治医や同法人内の母体施設の医療関係者と連携を密に図りながら急変時に迅速に対応できる体制を確認し合い、入居者や家族が安心し、納得して終末期の自己選択ができるよう準備を行っている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供書を活用して情報交換を行い他の期間に移転することにより発生する心身への影響を最小限に留めるように本人及び家族を含めその他の関係者が住み替えによるダメージについても理解しながら連携を図れるようにしていく。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 入居者は人生の上でも先輩であり今まで社会に貢献してきた人であることを踏まえ若年者の職員は当然敬語で接する事を基本とし、排泄や入浴などの介助においては自尊心を傷つけないように細心の注意を払いながら介護をしている。毎日のミーティングや職員会議にて入居者の個人情報の保護について、業務に流されない接遇、声掛け等尊厳を守る事について確認しあったり話し合ったりしている。		介護者側の対応言葉掛けや接し方により入居者の表情や感情ひいては自立状況にも影響することを常に認識しプライバシーの確保に取り組んでいく
			(外部評価) 調査訪問時、利用者が食べこぼされた際、職員は、さりげなく対応されていた。又、利用者の居室に入室する際にも、職員は、「おじゃまします。失礼します」と丁寧に声かけされている様子がうかがえた。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で入居者一人ひとりの関心や嗜好を見極め、表情や反応を感じ取りながら本人が選びやすい場面作りをしている。又、ワンパターンの決め付けをせず日によってしたい事たくないことを声をかけながら読み取り些細なことでも本人の意思を確認し、無理強いしないように注意している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりの1日の始まりがあり、その日によって起床時間や食事をずらすなど、入居者の生活リズムに業務を合わせていくように工夫している。買物、図書館、散歩や野花を摘みに行くなど各個人のしたい事や希望に合わせて、その日やその時々本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援を実施している。		日々の暮らしの中で業務優先になっていないか、介護者側の都合で介護サービスを進めていないか職員同士点検しながら介護を勤めている。
			(外部評価) 職員は、食事時間や入浴等、利用者一人ひとりの生活ペースを尊重しながら支援されている。昼食後のひととき、居間で職員とお話したり、テレビを楽しまれる方がうかがえた。車椅子を利用されている方は、居間ではソファに座って過ごされていた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせ朝の着替えや化粧品の利用などを見守り、不十分なところはさりげなく直したりして職員の感覚や価値観を押し付けることが無いように注意している。また行き付けの美容室を継続して利用できるように支援し、毛染めやパーマによりおしゃれの楽しさを持ってもらうようにしている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と一緒に畑で作った季節毎の野菜と一緒に収穫し、取立ての新鮮な野菜を使って、一緒に下ごしらえをしたり、味付けの具合を見てもらうなど何らかの形で参加してもらい季節感を味わいながら職員も膳を伴にし一緒においしく食べて大切な触れ合いや同調の機会となっている。 (外部評価) 調査訪問時、利用者がサツマイモの皮を丁寧にむいて、昼食の下ごしらえをされていた。畑で丹精された季節の野菜が食卓を飾ることもある。食器を洗ったり、箸置きを集める等、後片付けにいそんでいる方もおられた。季候のよい頃には、ベランダや中庭で食事やティータイムを楽しまれることもある。		季節ごとの旬の食材を使って季節感や食べ慣れた料理などで話題を提供したり楽しく食事する工夫を今後も続けていく
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりの好みや嗜好を把握し希望を再確認しながら嗜好品を楽しめるように働きかけている。コーヒーの香りを楽しみながらティータイムを取ったり、昔ながらの行き付けの店にお菓子やニッキ飴や甘酒と一緒に買いに行き昔を思い出して楽しんだりしている。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを排泄観察表等にて把握しており、トイレの声掛けをしたり尿意が無い人にはさりげなくトイレ誘導してできる限りトイレで気持ちよく排泄が出来るように支援して、オムツの使用を減らすように工夫している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて個別にあった入浴の支援をしている。入浴したい日や時間を確認し、入浴の場面において安全で本人の力が発揮できるような誘導に心がけ入浴時の負担感や羞恥心が最小限で、気持ちよく入浴できるように意向を大切にしながら入浴の支援をしている。 (外部評価) 介護度が重度の利用者は、寝た状態のまま移動し、併設の施設の特設浴を利用されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を各個人ごとに把握し、散歩や外出畑作業等を組み入れて日中の活動を促す工夫をしたり、その日の体調や表情から疲れ具合などを考慮し、適度の休息が取れるように支援している。センター方式の生活リズム記録を活用して1日の生活リズムが安定するように対策においてチームでアプローチしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 年間を通して野菜作りの計画や実際の作業に積極的に参加されたりまた見学されたりして一緒に楽しんでいる。また草引きや毎日の調理、花の植え替、暦の日めくり、箆置き集め、ウサギの餌やり等々一人ひとりの得意な事やそれぞれの出番の役割を果たせるように職員側の押し付けにならぬように、日々の暮らしの中で潜在能力や意識の掘り起こしをしている (外部評価) 畑仕事や料理、二層式の洗濯機を使っでの洗濯、読書等、利用者一人ひとりができることを継続していけるよう支援されている。時には、併設のデイケアに来られた幼馴染みとの再会に、懐かしい一時を過ごされる方もおられる。又、風船パレーやかるた、お手玉に興じることもある。月に一度来訪される、ボランティアの生け花の先生との交流を、皆さん楽しみにされている。		センター方式の活用により入居者一人ひとりの出番、役割を全職員が理解しまた平凡な日々の生活の中でも新しい発見が増えている  レクリエーションの研修を受講された職員が、「さらに、利用者個別にその人に応じた楽しみごとを見つけ、ご本人の自信や活力につなげていきたい」と話しておられた。
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族や本人の意向により自分の使い慣れた財布やバッグに大切にお金を所持している方もいる。家族からお金を預かっている方でも買物を楽しみ満足感が得られるように、一緒に準備してお金の支払いが出来るように支援している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日の買物と一緒に同行してもらったり、季節毎の花や紅葉等の見物に出かけたり、さまざまなレストラン等で外食や喫茶店でのケーキを味わう等、本人の気分や要望に応じて気軽に出かける支援をしている。職員も入居者と一緒に季節の花やおいしいものを食べたりして感情を共有し喜び笑って気分転換を図り生活に楽しみを持っている。 (外部評価) 日常的に散歩や買い物に出かけておられる。地元の新鮮な野菜を買いに「道の駅」に、2日に1回、買い出しに行かれています。又、利用者一人ひとりの希望にそって、図書館や神社、昔懐かしいニッキ飴等を売っている店にも日常的に出かけておられる。ホーム内では全介助が必要な方でも、外食時にはご自分の力で食べる姿が見られることもある。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 入居者や家族と相談し少し遠いお墓参りに行ったり、元気な頃に農作業をしていた農場に行くなど家族の協力を得たり、石手寺や近くの神社にお参りしたり、温泉に行ったり一人ひとりの思いや願が叶えられるように家族や親族の理解を得ながら個性の高い外出支援も実施している。		日帰り外出や温泉めぐりなどの小旅行を家族と一緒にどこかに行くことの検討も家族会で話し合ったり要望により勧めていきたい
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠く離れて住む親族と電話で近況を話したり、お孫さんからお便りや年賀状をやり取りしたり、季節の衣類などの依頼を本人から直接したり、電話をかける代行をしたり各個人の有する力に応じた支援をしている。またコードレス電話を活用して自宅でゆっくり会話ができるようにプライバシーの配慮もしている。		短歌や川柳をしていた方と一緒に絵手紙や短冊を作って少し離れた子供や知人に送ってみることも計画している。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ご家族や知人など面会時はお茶やお菓子などを出して接待し、本人やご家族が他者に気使いなく自宅でゆっくりと過ごしてもらおうようにしている。面会時間にとらわれず、夕方の仕事帰りに寄られたり、泊まってもらうなど柔軟に対応している。また普段離れていて本人との対応に戸惑いがある場合はすばやく察知してさりげなく近況を話し間を持つ事もある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の人権を護る事、高齢者の権利擁護や身体拘束における身体的精神的弊害等に研修や勉強会を開き、入居者の人権を護ることは介護の本質であることを事業所の理念に唱え拘束をしない介護の為に状態の安定を図る介護を目指し、日々のミーティングに於いても共有認識を図るようにしている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 朝起床時に入居者と一緒にカーテンなどを開けると同時に鍵を開け換気をしたりお天気を見たりしている。また玄関やホールの鍵も随時開け夕方暗くなる頃には入居者と一緒に閉めながら今日も1日終わった事を感謝したりする事もある。日中は鍵をかけない暮らしは当然として職員にも入居者にも認識され定着している。 (外部評価) 玄関、中庭に通ずる出入り口等、施錠せず、利用者が自由に過ごせるようになっている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中、夜間ともに入居者のそばにてさりげなく見守りをしていいる。自室にて過す場合も時間的にお茶や散歩などを声掛けしながらさりげなく状況を把握するようにしている。入居者の日々の様子や言動から察知し夜間は安全に過しているか睡眠状態等も観察して記録し職員間で共有できる体制にしている。		本人が見張られているという違和感を持たないように、あくまでもさりげなく見守りをする事を「黙視的接近」とし安全の保障を全職員で認識して今後も努力を惜しまない。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者の状態を全職員が十分把握し入居者が使うときの危険性が高いものについては一緒に見守り、危険を防ぐように注意している又、1日1回は保管管理の必要なものについて点検し記録する体制にしている。監視的、管理的にならないような認識にて申し合わせている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の現在の状態による予期される危険性に対する気付きや対策を話し合い事故防止に活かすようにしている。また、事故が発生した場合は事故ヒヤリハットに関する報告記録を義務付け全職員で対策について検討し対応している。同法人内の事故防止委員会の連携により組織的な対策も行っている		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 上級救命救急法の講習会を職員の過半数が受けている。また看護職中心に日頃から医療的知識や応急処置についての見解はミーティング等で深めている。緊急時対応についてはマニュアルを整備すると共に夜間の緊急時は同法人内の母体施設の看護職員と連携して対応する。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災や地震等の災害に備えて食料や飲料水、トイレ、防寒用具等の準備が常時法人として完備されている。また震度8に耐えうる地場対策がなされているため地域の避難場所としても活用できる状況である。地域の消防隊の協力により避難訓練をしたり避難経路や心構えなどについて訓練している。 (外部評価) 併設の施設と合同で、夜間を想定した避難訓練を実施された。火災に備え排煙口が数カ所あり、スプリンクラーの設置も着々とすすめておられる。運営推進会議時、地域との連携について話し合わせ、事業所を地域の避難場所の一つとして提供したいとの旨も提案された。		電化住宅の設備であり煙探知機や火災通報装置、タバコ等の始末等においては徹底しているが、万が一の事項に備えて火災に対応するスプリンクラーの設置をする予定である。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居者一人ひとりの予測されるリスクについて把握し常日頃から家族や本人と率直に相談しながら、行動範囲や自由な暮らしの弊害が無いように現状や介護サービスの姿勢等を明確にし、共通認識の下で支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 入居者全員にバイタルサイン測定を行い体調や排泄等に於いても個別の状況記録にて管理共有し、異常の早期発見としてまた医療連携の報告、指針として活用している。週間状況記録表を全職員で検討して作成し、人目で入居者の状態が把握できるような工夫をしている。		週間状況記録を活用し水分や食事の摂取状態、排泄状態に於いても観察管理共有し総合的な判断基準として今後も適宜改正しながら活用していく

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服治療に対する説明を主治医から受け、本人や家族に分かり易く説明したり、全入居者の内服状況が解かるように薬局からの説明書を個別にファイルして共有認識としている。また途中で内服薬の変更時は毎日のミーティングや送りノートにて共有できる体制にしている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝食時に乳製品を摂る工夫をしたり、寒天を使用したゼリーを皆で作って食べたり、畑で採れたさつま芋を適宜蒸したり料理して食べたり、またセンナ茶をゆっくり煎じて皆で楽しく飲んだりして排便の状況を個別に観察しながら勤めている		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後は各個人の力量により声掛けしたり誘導したりまた実際に介助したりしながら、口腔内の残渣物を取り除き口臭がある場合は更にブラッシングを介助している。個人にあったさまざまな型のブラシを準備して使用している。義歯は夜間に殺菌消毒して清潔に心がけている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の食事摂取量、水分摂取量等を観察し記録して職員間の情報共有にしたり家族や主治医への情報提供にしている。同法人の管理栄養士や主治医の専門的な指導を受けながら栄養バランスを考慮している。また楽しくおいしく食べて頂く為の工夫を惜しまず実施している。 (外部評価) 調査訪問時、昼食の豚カツは薄切りの肉を重ねて、食べやすいよう工夫されていた。減塩しょうゆを使用されたり、利用者の持病にも配慮して支援されている。いつでもお茶を飲めるよう、食堂にやかんを置いておられ、居室にもペットボトルや急須に入れて持ち込む等、水分補給できるよう支援されている。		同法人母体施設の協力にて腎臓機能低下による減塩腎臓食の提供を実施する事が出来た。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症対策マニュアルを作成し、平常時と注意期、感染発生モードに対応策を分けて全職員が認識し共有している。また地域の感染状況に於いて医療連携機関や町保険課、母体施設との情報交換を密に取り早期処置にて対応している。インフルエンザ予防は入居者及び法人ないの職員として実施している。感染症予防は手洗いからを理解し実行している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>まな板布巾は毎日洗浄除菌して太陽に干したり、生鮮食品と野菜等のまな板は区別している。台所の清掃は週間表にて掃除残しがないよう点検し清潔を保持している。毎日買物に行くので生鮮食品は新鮮なものを使用している。献立表の作成により食材が無駄にならぬように工夫している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>明るく親しみやすい玄関になるように季節の花を植えたり、ベンチに荷物など置いてゆっくりできるスペースを創っている。又さりげなく季節感のある観賞用の植物や生け花などで来訪者の気持ちが和らぐように工夫している。また必要以上の装飾にならないように注意している。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>天窓からの柔らかな照明にてのんびりと落ち着けるように座りやすく立ち上がりやすいソファを設置して憩いの場として活用されている。面会に来たご家族等が安心して長居が出来る場所づくりを目指して火鉢やコタツなどの季節感のあるものにて自然に季節を実感できるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、ボランティアの生け花の先生が季節の花を生けてくださっており、赤や黄に色づいたカラスウリ等も飾られていた。天窓からは自然の光が採り入れられ、居間からは、散歩道や東屋のある中庭が眺められる。畳コーナーの床の間には、掛け軸が掛けられ、火鉢のそばに炭入れも置き、冬支度がなされていた。</p>		<p>どんぐりやほうずき、栗や稲穂などで玄関やリビングの小スペースにさりげなく置いて自然に季節感を味わえる工夫を今後も継続していく。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の居室入り口に暖簾やベンチを置く事により共用場所との落ち着いた空間造りになると共に、入居者同士の交流の場になったりして居心地のよい空間となっている。周囲のペランダやデッキにはさまざまに椅子を置きウサギを交えて、また畑の様子を観察したり、お弁当やティータイムに活用するなどさまざまな用途に応じた利用をしている</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			<p>自宅で使い慣れている椅子やタンス、時計や鏡台などまた思いで深い出来事の写真や自作のオリジナル作品など入居者のそれぞれの馴染みの物を置き、部屋全体が落ち着けるようにご家族にも協力を得て居心地の良い居場所作りに心がけている。</p>		
			(外部評価)		
			居室の入り口は、お部屋の玄関のような空間になっており、椅子も置かれており、個々に個性のある空間になっている。居室内は、タンスや鏡台、テレビ、椅子等を持ち込まれ、ご本人の手作りの作品や、ご家族の写真等を飾っておられる方もおられた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			<p>各場所に設置してある排煙窓を適宜開閉し自然な換気に努めている。浴室、脱衣所、ホール、各居室毎に温度計を置き冷暖房や季節の変わり目の換気等においての数字的指針として外気差が5度以上にならないように温度調節をしている。また外から入った時の臭気を確認して換気にも注意している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			<p>各居室には車椅子対応の洗面台が設置してある。入居者の身体の可動域の状態により物干しの高さを調整したり、居室に椅子を置いて移動の拡大を図っている。生活空間での危険性を点検して安全の確保に努めながら一人ひとりの残存能力を最大限に活かした活動を目指して工夫している。</p>		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			<p>各居室の入り口にはそれぞれ暖簾での区別を行いドアには本人と一緒に作った名札をつけまた自分が作った小物を取り付けて目印にして部屋の確認が自然に出来るようにしている。また本人の認識能力の変化に応じて不安や混乱を最小限に出来る方法を常に心がけている。</p>		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			<p>自然豊かな環境と中庭や東屋、ベランダや玄関等の戸外活動スペースを最大限に利用してウサギとの交流やティータイム、外来者との交流などに利用したり、またのんびりと外気浴をしたり、菜園の野菜の世話をしたりと入居者個人の心地良い時間を過して心身のリフレッシュに役立っている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	センター方式のアセスメントを活用して入居者本位のサービス提供に努めている
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	入居者9人に対して4～5人の職員にてサービス提供しているため個別の対応が出来る
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者本位を重視した介護を実施し、黙視的接近による見守りや声掛けをしている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声を出して腹の底から笑ってもらうことを目標に介護しているが、要介護の重度化と共に個人の笑う場面が減少している場合がある
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたい所を選んでもらうように意向を確認している
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常的な観察を重視し、主治医と連携を図りながら病状の早期発見に工夫している
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族と相談しながら、温泉に入ったり、毎日働いていた畑に行くなど要望に応じて対応している
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の健康状況や農作業の様子、家庭での生活上の不安などについて相談されることが多くなった
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の知り合いの方保育園生、小中高生等の訪問がある

項 目	取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	判 断 し た 具 体 的 根 拠	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) ①大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	推進委員との交流の輪を町内で拡大している。また民生委員との交流も広がり遊びに来ていただくこともある
98	職員は、生き生きと働けている	(自己評価) ②職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全職員が向上できるようにOJT計画を進めながら毎日のミーティングを中心に情報を共有し改善点をあげ対策を検討したり前向きな意識を高めている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔で笑いが出る生活を目指して介護を勤めているまた人権や尊厳等権利擁護に対する理解を全職員が深く介護に反映できるように努力している
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ②家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	アンケートを実施したり率直な意見を伺ったりしながら意見要望を改善の宝とするように取り組んでいる

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

運営推進会議は頂いた贈り物であるのでこれらを活用した取り組み、家族会、町内グループホーム連絡会等が総合的に連携を図り地域密着型サービスの根源である地域に開かれた活動、地域ネットワーク作りに貢献できるような活動を勤めている。入居者一人ひとりの個別介護を中心にゆったりと自然な生活の継続を進めている。